

大阪ガス株式会社では、さまざまな社会貢献活動を展開しているけど、平成25年4月から新たに「ハートボールプロジェクト」という取り組みをスタートしたよ。会社の野球部で使用したボールを福祉作業所で縫い直して、高校球児の元に届けるっていう、夢のある取り組みなんだ。



みんなで作る ひょうごの福祉

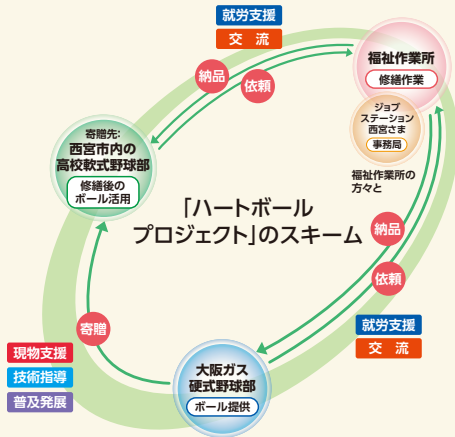
地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

修繕したボールを高校に寄贈

「ハートボールプロジェクト」の目的は、プロジェクトに携わる大阪ガス硬式野球部と福祉作業所、高校などが、互いに支え合うことのできる関係を築いていくことにある。

アイデアの基になったのは、京都府内の高校等と福祉作業所で展開されていた「エコボール」という活動だ。硬式野球部と社会貢献推進チームで検討した結果、同社の野球部のボールを福祉作業所で縫い直し、高校に寄贈するという本プロジェクトが生まれることになった。実現したのは「ハッピーな人の輪を広げたい」というメンバーの強い思いだ。

同社野球部の活動拠点が西宮市



企業と福祉作業所、高校をつなぐ 「ハートボールプロジェクト」

～互いに支え合える関係づくりを目指して～



福祉作業所でボールを修繕!

の今津グラウンドにあることから、修繕作業を市内の福祉作業所に呼び掛けたところ、15の作業所から「ぜひやりたい」という声が上がった。ボールの修繕は丸く仕上げるのが非常に難しく力も必要で、かなり大変な作業だが、全てが手作業で行われている。ボールは新品で買えば1個1000円。寄贈先とした市内の高校では、部活動の財源も少ないことから多くの感謝の声が聞かれた。

ボールから新たに生まれる交流

プロジェクト開始から1年間で寄贈したボールは1000個に到達した。この取り組みをきっかけに、福祉作業所では高校から直接ボールの修繕を依頼されるようになり、就労支援にもつながったという。

さらに、ボールを修繕して寄贈するだけでなく、大阪ガス野球部員がボールを持って福祉作業所を直接訪

問したり、作業所のメンバーが野球部の試合を観戦したりと双方の交流が広がっている。作業所のメンバーからも、「社会貢献する側に立っていることがうれしい」「心を込めて縫ったボールが真剣な練習の中で使われていることはとても励みになる」「近くの高校野球部の応援ができる」など、思いがけない言葉を得ることができた。

「修繕したボールそのものも大事だが、私たちはこの交流がとても大切だと感じている。今後も継続して活動していきたい」と野球部ヘッドコーチの箱崎豊さんは話す。夢の詰まったボールが取り持つ「縁」は、さらに広がりをみせている。

取材を終えて

社会人野球では古いボールは捨ててしまうことが多いそうです。ちょっとしたアイデアから、多様な立場の人々がつながるきっかけが生まれたところに、地域づくりの新たな可能性が垣間見えました。

大阪ガス株式会社 リビング事業部
兵庫リビング営業部 コミュニティ室
☎078-360-3022